

日光市新文化会館施設整備における複合施設等の方向性について

令和5年度に新文化会館整備の基本構想の策定を行うこととしているが、策定にあたっては、候補地及び施設規模を軸に具体的な内容を絞り込む必要がある。このため、まずは、新文化会館施設整備基礎調査業務委託の結果を踏まえた市の考えを示したうえで、委員からの意見を伺いたい。

I 新文化会館に複合化する施設の機能について

1 商業施設…収益性の視点から（例：農林水産物直売所、飲食店）

→収益性の視点からは、優位な機能であるが、他の民間施設との競合による影響や文化施設としての目的との乖離も懸念されることから、複合化の主軸としてではなく、民間活力主導による付带的機能として検討することが望ましい。

2 交流施設…市民利用の視点から（例：子育て支援施設、公民館）

→市民利用の視点からは、子育て支援施設や中央公民館との複合化は、一定の価値があるといえる。ただし、子育て支援の拠点施設がすでに整備されていることから、差別化を図る必要があり、中央公民館については、複合化だけでなく、民間施設内を活用することについても検討していく。

3 文化施設…文化振興の視点から（例：図書館、世界遺産ガイダンス機能）

→文化振興の視点からは、世界遺産ガイダンス機能を備えることで、文化会館自体の価値を高めるとともに、修学旅行生だけでなく、地域の児童生徒の学習の場としての活用への期待も大きく、また、郷土愛を育む効果も高いといえる。ただし、ガイダンス機能の持たせ方については、時代にマッチした方法を模索する必要がある。



以上の視点を踏まえ、市の考えとしては、商業施設機能を除く次の2つの機能に絞り込んだうえで、次年度の基本構想策定の中で検討したい。

- ① 交流施設との複合化（子育て支援機能）
- ② 文化施設との複合化（世界遺産ガイダンス機能）

Ⅱ 新文化会館整備の候補地について

候補地については、複合化する施設の内容により適地が判断され则认为。このため、それぞれの候補地における適切な複合施設が何かを見極める必要がある。

1 今市文化会館解体後跡地

人口が多い地域であることから、子育て支援機能との複合化については、今市文化会館跡地が適地と考える。

【留意点】

十分な敷地面積を有しているものの、一方で近隣に類似施設があること、施設整備期間中に今市文化会館のホールが使用できなくなることなど、利用者の利便性低下に対処する必要がある。

2 七里地内市有地

世界遺産「日光の社寺」に程近く、修学旅行生等の利用においても有利な立地であることから、世界遺産ガイド機能との複合化については、七里市有地が適地と考える。

【留意点】

周辺に公園等が整備されていることから、市民等も日常的に利用しやすい立地であるが、敷地が小さいため一部用地買収が必要となる可能性がある。



① 今市文化会館解体後跡地（子育て支援施設との複合）

② 七里地内市有地（世界遺産ガイド施設との複合）

以上の2点に絞り次年度の基本構想策定の中で検討していきたい。

Ⅲ 施設規模（ホール席数）について

・施設規模（ホール席数）については、500～900席が適正と判断。

→市内の児童生徒1学年全員が集える規模が必要という意見があったことから、財政状況や今後の人口推移を見極めながら、800席を上限に確保していきたい。



施設規模は、事業費に大きく影響することから、800席を上限に次年度の基本構想策定の中で検討していきたい。